# 治罪法備攷上編

第四

ワ 15
815
4

和装本

6

第15
8/分
4

東京帝國大學圖書

治罪法備考上編第四卷

○第十四章

告訴告發

按スルニ、罪犯ハ、獨リ一人一家ノ私冦ナルノミナラズ、又舉世ノ公害ナリ、故ニ人民已ニ合聚シテ以テ國ヲ成ス、則チ相與モニ協濟シ、公害ヲ除イテ、以テ共福ヲ保ツ、它人ノ家ノ事ニ非ザルナリ、歐洲各國、平民親シク覩ル所ノ重罪ヲ法司ニ告發スルヲ以テ、揭ケ

テ其ノ義務トス、今我カ人民、訟事ニ干連スルヲ以テ怯トシ、隣伍禍ニ罹ルモ、猶黙シテ發セス、甚シテ、容隱ヲ以テ氣義トスルニ至ル、兇慾網ニ漏ル、者多キハ、職トシテ是レニ由ル、今〻已ニ檢官警士ノ設ケアリ、又宜シク各民告訴告發ノ義ヲ明示シテ、國中ニ頒布シ、其ノ方向ヲ知ラシメ、又其ノ式ヲ定メ、準依行ヒ易ク、以テ罪犯ヲ發シ、遺漏ナカラシムベキナリ、

檢官罪犯ノ發覺ヲ得ルノ方、一ニ曰、騷動（衆口声説ス）二





曰、警官警士ノ報告、三ニ曰、告訴、四ニ曰、告發、五ニ曰、私訴、「デーフ」氏

告訴トハ、罪犯ノ爲ニ親シク兇害ヲ被ムル者、法司若クハ檢官ニ訴フルヲ云、告發トハ、被害人ニアラズシテ、它人罪犯ヲ見知スル者、檢官ニ告クルヲ云、

凡ソ目代、及目代輔助諸官ハ、重罪懲治罪犯ノ告訴告發ヲ受取リ、輔助諸官ハ、速ニ之ヲ目代ニ送リ、目代之ヲ點檢シ、請牒ヲ附シテ、又糾問法官ニ送ル、「グロン」氏曰、必ス目代ニ送ル者ハ、以テ請牒ヲ附スルニ備フ、○違警罪ハ、警察使ニ送

ル

告訴告發ニ依リ、糾治ヲ行ヒ、喚問引致ヲ命スルハ、專ラ糾問法官ノ任トス、目代及輔助諸官ハ、告訴告發狀ノ花押ヲ査核スル爲ニ、告訴告發人ヲ喚召スルヿヲ得、「ログロン」氏ニ據ル自ラ糾治處分ヲ行フヿヲ得ズ、現行犯ト同シカラザルナリ、

一人ノ告訴告發ハ、現行犯、衆口聲說ト同カラズ、以テ聽察完足スト爲スベカラズ、故ニ檢官、告訴告發ニ依リ、直チニ拿捕ヲ命スルヿヲ得ズ、必ス糾問法官ノ喚問ヲ待ツ、人身自由ヲ尊重シテ、怨



仇ノ枉陷ヲ防クナリ、治罪法四十條、「ログロン」氏、累犯人ニ係ルトキハ、檢官、告訴告發ニ依リ、直チニ拿捕ヲ命スルヿヲ得、警兵、亦直チニ拿捕シテ、檢官ニ引致スルヿヲ得、○但シ被告人、若シ無産人、

目代輔助諸員ハ、告訴告發ヲ點檢シ、其ノ事件、法律ニ觸レザルヿ明白ナル者ヲ除クノ外、其ノ疑フベキ者及証憑具ハラサルヲ以テ、告訴告發ヲ不クルヿヲ得ズ、是レ目代ノ任ニシテ、輔助諸員ノ責ニアラズ、已ニ目代ノ章ニ見ユ、○「ベレーウ」氏備警兵字類ニ據ル、

告訴狀告發狀ハ、或ハ自ラ書録シ、或ハ名代人ヲ任シ、書録セシム、並ニ本人若クハ名代人、及受取

ル所ノ撿察官、毎紙ニ花押ス、其ノ名代人ヲ任スル者ハ、公証委任状ヲ本状ニ附ス、

或ハ撿察官ニ口陳シ、撿察官受ケテ之ヲ書録シ亦本人、若クハ名代人、毎紙ニ花押ス、（自ラ録スル者ハ願状ト名ケ、撿察官書録スル者ハ、報告書ト名ク、）

告發人ノ口陳ヲ受ケ、口書ヲ作リ、分隊長若クハ屯長ヨリ、目代ニ送ル、

告訴告發人、若シ花押スルヿ能ハザル時ハ、証告書、其ノ由ヲ著ス、若シ花押シ能フト云ヒ、拒テ爲サヾル者ハ、告訴告發ノ力ナシ、偶其ノ知會ヲ得



テ、採問ノ資ケースルハ、目代ノ意ニ隨フノミ、（ロシヒ氏）

本人、若クハ名代人、自ラ書録シタル告訴告發狀ハ、撿察官憚之ニ花押シ、一辭ヲ增減スルヿヲ得ズ、但シ本人名代人ヨリ增減センヿヲ乞フ者ハ、其ノ意ニ隨フ、（千八百五十四年三月令）

告訴告發人ノ口陳支離ナル者ハ、其ノ辭ヲ逐ヒ句ヲ寫スヲ要セスシテ、務メテ本人ノ意表ト的確符貼スルヲ要ス、（備警兵報告書式）

凡ソ告訴狀告發狀ハ、所及明確詳精ニシテ、其ノ

事犯及前後ノ情景、情景ハ、罪狀ヲ重シ、若クハ輕クセシムヘキ者、ヲ曲悉スルヲ要ス、願狀人千証人ノ姓名職業住所及被告人ノ姓名職業住所、知ルベキ者ハ、之ヲ舉ク、

備警兵字類、

被告人若シ發獲セザル時ハ、告訴告發狀ニ於テ、其ノ狀貌体裝ヲ指明シ、備警兵之ヲ探索スルニ備ス、同上

「オルトラン」氏云、刑事綜計表ヲ按スルニ、凡ソ告訴告發及報告ヲ并セテ、其ノ各民ニ出ル者、僅ニ総數十七分ノ一ニ居ルニ過キズ



其ノ它ハ皆檢官警士ニ出ルヲ云、

告發

凡ソ政府ノ官吏及公士タル者、貴賤ヲ論セズ其ノ職務ヲ行フニ當テ、職務外ニ於テ、平民ニ同シ、重罪懲治罪犯アルヿヲ知ル時ハ、違警犯ハ、官吏ノ報知ヲ必トセズ、直チニ現犯ノ地ノ目代、若クハ犯人ヲ見獲スベキ地ノ目代ニ其ノ它ノ檢察官ニ於テセズ、告発ク已ニ官吏タルヲ以テナリ、報知シ、証贓文憑ヲ送付スベキノ務メヲ有ス、但シ刑法ニ條ナシ、若シ刑法ニ知而不レ告ノ條アラシメバ、官吏残酷苛風ヲ成シ、流弊從テ起ラン、分注「オルトラン」氏ニ拠ル、國ノ安寧ヲ侵シ、及人ノ生命産有ヲ侵スカ如キ

重罪アルヲ親見シタル時ハ、「ロクロン」氏曰、官吏ニハ、親見ト云、此レ官民ノ義務、自ラ輕重アルナリ又平民ハ重罪ニ限リ、官吏ハ輕重罪ニ渉ル、犯人ノ貴賤ヲ論セズ、凡ソ平民、其ノ地、若クハ犯人ヲ見獲スベキ地ノ目代、若クハ它ノ檢察官ニ報知スベキノ務メヲ有ス、其它ノ輕犯ハ、告クルト、告ケサルト、其ノ人ノ意ニ隨フ、「オルトラン」氏ニ據ル、

「ロクロン」氏曰、法章、之ヲ槩言スルニ過キズ、其ノ父子夫婦ハ、相告ルノ義務アルヲ得ザルヿ、言ハズシテ明カナリ

「オルトラン」氏曰、告發ノ純ラ正義直道ニ出ル者ハ、則チ國民義務ノ美タリ、其ノ或ハ貪慾怨恨、報復圖賴、凡ソ邪思ニ出テ、其ノ事ヲ張大ニシ、其ノ意ヲ誅求シ、輕率証舉スルニ至テハ、則チ變シテ不良ノ事ヲ成ス、若シ夫レ托セラルヽノ隱秘ヲ摘キ、知ル所ノ信義ニ負ク、是レ亦忍ヒザル所、忍ヒザルノ心ト、國民タルノ義務ト、交胸宇ニ戰フ、取舍ノ間、人々本心ノ安スル所ニ從フ而已、千八百十年ノ刑法ニ、知而不告ノ律アリ、千八百三十二年ニ於テ、廢シテ用ヒズ、是レ吾人ノ大慶

タリ、乃チ官吏罪ヲ知テ告ケザルモ、亦獨リ紀律ニ乖クトスル而已、刑律ニ觸ルヽニ至ラザルナリ、

税關犯禁ノ類ハ、告發スル者、賞アリ、賞ヲ受クルノ告發人ハ、証左人タルヿヲ得ズ、其ノ它ハ、告發人タルヿヲ得、與問シテ証

民法七百二十八條ニ據ルニ、凡ソ相續人ノ成丁ナル者、先人ノ殺サルヽヲ知テ告ケザル者ハ、相續スルヿヲ得ズ、

告發人ハ裁判官所見ニ隨ヒ、審判ノ間、被告人ニ





主名ヲ知ラシメザルヿヲ得、但シ重罪被告人、無罪ノ裁ヲ受ケ、解放シタル時ハ、訟廷ニ於テ、目代ニ告發人ヲ知ラシヿヲ求ムルヿヲ得、目代ハ、其ノ主名ヲ告知セザルヿヲ得ズ、

告發狀ニハ、或ハ犯人ヲ指示シ、其ノ發覺セザル者ハ指示セズ、

告發狀式、告發人口陳シテ、檢官書録スル者、

何年何月何日、朝何時、我等、何區保安法官ノ前ニ、何所居住、寄宿塾女師何某、出頭シテ、左ノ事件ヲ告發シ、我等之ヲ筆録スルヿヲ求メタリ

三日前ニ、自分ノ寄宿塾ニ、一婦人來リ、自分ニ何邑ノ醫師何某ノ花押シタル一書ヲ與ヘ、書面ニ塾生ノ一少女何氏ノ母何氏、劇症ヲ被リタルニ因リ、母ヨリ醫師何某ニ托シ、自分ニ書翰ヲ投リ、急ニ該少女ヲ送遣リ、使ノ農婦ト共ニ、母ノ許ニ還スベキ云々ヲ載セタリ、少女及自分、共ニ醫師何某ノ書法ヲ知ラザルヲ以テ其ノ偽書ナルヿヲ思ヒヨラズ、母ノ病ト云ヲ信シテ、何心ナク少女ヲ謂フ所ノ農婦ニ托シ、農婦直チニ少女ヲ車ニ載セ、車中ニ在ル一男



子、農婦ノ夫ト稱シ、号衣シタル驛夫、車ヲ御シテ行キ去レリ、然ルニ少女ノ世母何村ニ在ルヲ以テ、少女ノ母ノ病ヲ報知スル爲ニ、自分今日醫師何某ノ書ヲ齎ラシ、僕何某ヲ遣リ、世母ノ許ニ送レルニ、豈料ランヤ、世母、披キ見ルト、否ヤ、一聲叫喊シテ云、是レ全ク醫師何某ノ書法、及花押ニアラズ、且昨日、妹氏ノ書ヲ得タルニ、彼レ平安常ノ如シ、決シテ病患ノ理ナシ、我カ姪氏ハ、強畧ヲ被リタルヿ、疑ヒナシ、誰カアル、急ニ司法檢察官ニ報知シテ、罪人ヲ追捕セ

ザル乎）ト、此ノ事、使僕何某、復報シタリ因テ自分急速上件ヲ告發スル者ナリ、

上件告發人ノ陳述ニ依リ、我等此ノ証告書ヲ作リ、告發人ニ讀ミ聞セタルニ、告發人何某、其ノ正實偽リナキヿヲ甘結シ、我等乃チ告發人ト共ニ花押シタリ、

何年月日何所ニ於テ

保安法官　花押

告發人　花押

又式 告發人自ラ書録スル者





何郡目代貴下ニ向テ、何所居住、何職業、何某、敬テ左ノ事件ヲ告發ス、

昨夜、自分ノ隣人ナル甲某、暴死シタリ、昨日、甲、自分ト共ニ、終日田野ニ耕作シ、一所ニ食事シタルトキニハ、毫カモ不快ノ色ヲ見ズ、夕刻、甲、其ノ家ニ歸リ、其ノ家婢乙カ烹辨シタル食物ヲ喫ヒタル後ニ、自分及丙某ニ向テ、俄カニ劇シキ苦痛ヲ覺ユ、日間勞働過度ナルニ因ルナルベシ）ト話シタリ、其ノ夜、彼レ寢ニ就キ、今朝、死絶シテ床ニ在リ、夜間、婢乙、甲ヲ護養スル爲ニ

一人ヲ呼フ〻ナシ、乙、三週前ニ、何街ノ調藥師何某ヨリ、羊ヲ摩スル爲ト云ヲ以テ、砒石毒藥ヲ買フタリ、甲ノ死ハ、彼レノ所爲ナル〻疑ヒナシ、因テ自分急速上件ヲ告發スル者ナリ、

何年　日何所ニ於テ　目代　花押
告發人　花押

此ノ告發狀ノ下ニ、檢官附記スル〻、左ノ如シ、

何年何月何日、タ何時、我等目代何某ノ前ニ、何某出頭シテ、全文共ニ何某筆録シ、及花押シタル告發狀ヲ奉ケタリ、猶本狀ヲ何某ニ讀ミ聞セタルニ、渠レ其ノ正實僞リナキ〻ヲ甘結シ、我等、乃チ告發人ト共ニ苍押シタリ、

告發ノ趣キニ據レハ、重罪犯、猶現行ニ係ルヲ以テ、治罪法何々條ニ循ヒ、我等將ニ何街何号ノ家ニ進ミ、搜索訪明シ、續テ處分ヲ求メントス、

目代　花押
告發人　花押

官吏知ル所ノ犯罪ヲ報知スル式

何區保安法官、敬テ何裁判所目代貴下ニ、左ノ事件ヲ報知ス、

本月二十日、夜何時、何小區何街ノ一屋、第二階、何某氏ノ居室ニ、内戸破毀ヲ用ヒテ、金貨何計ノ賊盜犯アリ、

該盜ノ被告人ハ、已ニ捕ニ就キタル何所出産、何所居住、何職業、何歳、何某ナリ、

該犯事、本日何時、被害人何某ノ告訴ニ依テ、我等知會スルヿヲ得タリ、何年月日何所ニ於テ保安法官花押





凡ソ重罪、懲治罪犯ニ因テ、其ノ損害ヲ受ケタル者ハ、犯所、若クハ犯人居住ノ地、若クハ犯人ヲ見獲スベキ地三所、共ニ訴ルヲ許ス者ノ目代、若クハ便捷ヲ要スルナリ、目代輔助諸官、若クハ糺問法官ニ向テ、告訴スルヿヲ得告發ノ受ル者ハ、目代ト、目代輔助諸官ニ限ル、告訴ハ、糺問法官、亦之ヲ受ルヿヲ得、○其ノ違警罪犯ニ因テ損害ヲ受ケタル者ハ、警察使、若クハ邑長副邑長ニ向テ告訴シ、田野山林犯ニ於テハ、林警人野警人ニ向テ告訴スルヿヲ得、分注、可グロン氏ニ据ル、

其ノ損害ヲ受ケタル者トハ、已レ自ラ其ノ身、若クハ其ノ財産ニ害ヲ受ケ、及已レノ爲ニ重要ナ

ル人ノ身若クハ財産ニ害ヲ受ケタル者ヲ云、故ニ父、子ノ爲ニ訴ヘ、夫、妻ノ爲ニ訴ヘ、後見人、幼者ノ爲ニ訴ヘ、家主、奴僕ノ爲ニ訴フルヿヲ得、但シ子ハ、父ノ爲ニ訴フルノ權ナシ、故ニ父ノ爲ニ訴フル者ハ、委任証書アルヲ要ス、「ロ」グロン氏云、目代ノ公訴ハ、獨立隨意ニシテ、告訴ノ有無ニ關セズ、但特例數條、告訴ヲ待テ然シテ後檢察ヲ始メ、告訴人無ケレバ、目代自ラ擿發セザル者アリ、有夫姦ハ、夫ノ告訴ヲ待チ、未丁女子ノ誘拐ハ、被害ノ家ノ告訴ヲ待チ、玷辱ハ、被害人ノ告訴ヲ待ツ、是レナリ、目代ノ公訴ニタヒ發スルノ後ハ、告



訴人ノ附帶訴理スルト否トヲ問ハズ、間斷ナク處分徹到スルヲ要ス、但有夫婦、已ニ訴フルノ後、夫再タヒ和スル者ハ、目代復追糺セズ、「メーゾン子ウ」氏

告訴式

何郡ノ糾問法官貴下ニ向テ、何地居住何職業、何某、敬テ左ノ罪犯ヲ告訴ス、

白分、當年十八歳未成人ノ女子甲アリ、此ノ女子、素テ本邑ノ花戸乙ト、或ハ手ヲ携ヘ遊歩シ、或ハ隣近ノ家ニ會逢シ、情好アル丁、已ニ一朝ニアラズ、自分、女子ヲ教戒シ、女子ノ答言ニ依ル

ニ、明カニ乙女子ヲ賺シ挑引シタルト見ヘタリ、爾來屢禁止スト雖モ、女子出行時ナラズ、終ニ料ラズ、昨夜二時ニ、乙女子ヲ馬車ニ乗セテ連レ行キ、自分絶テ聞知ラズ、今朝、始メテ女子素テ用フル処ノ衣巾ノ半ヲ携ヘ去リタルヲ見、彼レ父カ家ヲ出奔シタルヿ疑ヒナキヲ知ル、何邑何某ノ家、此ヲ去ルヿ三里、乙ト女子ト車ニ乗リ、其ノ前ヲ通行シ、何某ニ見逢ハレタリ、前日、自分夫婦、女子ガ乙ノ來ルヲ忍ヒ、輕少ノ贈遺ヲ啖フヿヲ賤ミタレバ、女子深ク悔悟



シテ、誓テ父母ノ意ニ乖カズト答ヘタリ、思ハザリキ、乍チ此ノ事アラントハ、何所居住何某ノ告知ニ据ルニ、乙女子ニ向テ云、（女子、父母ノ家ニ於テ、素ヨリ自由ヲ得ズ、女子ノ行年ニ及テ、舉動十分自由ナルヿ、當然ナリ、若シ一好友アリテ、快美安樂ノ懇情ヲ以テ相接セバ、其ノ許ニ就テ、自由ノ地ヲ擇ヒ、父母ノ家ヲ去ルヿ、大ニ善カラズ乎）ト、數日來、女子恍然トシテ、平常ニアラズ、深ク思フヿアル者ノ如シ、乃チ此ノ事ヲ豫謀シタルナリ、女子平素細謹ニシテ、

乙ト未タ相知ラザルハ前ニハ、嘗テ放行邪恩アラザリキ、乙其ノ朴愚、事ヲ經ザルニ乘シテ誘拐シタルヿ、疑ナシ、

是ニ因テ、告訴人何某、上件ノ訴ヲナシ、仍其ノ正實偽リナキヿヲ甘結シ、又証人何某何某ヲ引テ、証据トナシ、且法ニ循テ處分スルヿヲ求ム、

何年月日、何所ニ於テ

糾問法官　花押

告訴人　花押



告訴狀ノ下ニ於テ、糾問法官附記スルヿ、左ノ如シ

此ノ告訴狀、何邑居住、何職業何某ヨリ、我等ニ付シ、且其ノ事實、告訴狀ノ載スル所ト相違ナキヿヲ甘結セリ、又何某引致スル所ノ証人何某何某ノ供述ヲ聽キ、告訴及証人ノ言ニ据ルニ、事犯猶現行ニ係リ、及其ノ重罪ニ係ルヲ以テ、我等乃チ乙ニ向テ、引致狀ヲ下シ、速ニ我等ノ前ニ引致スルヿヲ命シタリ、

何年月日

糾問法官　花押

又

何郡ノ日代貴下ニ向テ、何地居住呉服商某、敬テ左ノ事件ヲ告訴ス、

去ル何日、一婦人、自分ノ舗店ニ來リ、公證人何某ノ家婢ト稱シ、其ノ使ト云ヲ以テ、三十「フラン」ノ價ナル木綿ノ圖枕ヲ聯買セリ、其後何日、自分ヨリ何某ニ圖枕ノ價ヲ催促シタルニ、何某嘗テ自分ノ舗店ニ聯買セシメズ、殊ニ嘗テ圖枕ヲ買ハズト云、其ノ奴婢ヲ皆呼出シタル





ニ、曩日ノ婦人ニ似タル者ヲ見ズ、遽カニ驚テ、探問シタルニ、其ノ婦人ハ、乃チ何街ニ住スル、平素テ騙詐ヲ以テ習トセル女子何某ナリ、

是レニ因テ、上件ヲ告訴シ、仍其ノ正實偽リナキヿヲ甘結シ、又何某ヲ以テ証據トシ、法ニ依テ処分スルヿヲ求ム、

何年月日何所ニ於テ　　日代　花押

告訴人　花押

此ノ何某花押シタルノ告訴狀、何某ノ名代人

トシテ、何所居住何職業何某名代人ノ委托状ハ目代、及名代人、毎紙、横劃ヲ加ヘ、ヨリ、我等ニ付シ、我等ノ求メ告訴状ニ附加ス、

ニ因リ、何某、其ノ事實告訴狀ノ載スル所ト相違ナキヿヲ甘結セリ、續テ、我等、法ニ依リ、法官ニ糺治ヲ求メントス、

目代　花押

名代人　花押

目代請牒

告訴告發狀ヲ受取ルノ後、目代之ヲ點檢シ、更ニ請牒ヲ附シテ、糺問法官ノ處分ヲ求ム、式





何郡裁判所目代、何月何日、何所ニ於テ何職業、何某ノ家ニ、何所居住無産人何某、賊盜ヲ行フタルノ告訴ニ依テ、糺問法官貴下ニ向テ、糺治ノ處分ヲ行ヒ、引致狀ヲ付シテ、該犯ヲ引致セシメ、及証人何某ヲ喚問スルヿヲ求ム

所告不實

告訴、及告發、實ナラズ、其ノ事、疎率考ヲ欠クニ出ル者ハ、法官裁決、被告人ヲ放免シ、其ノ懲治罪以下ニ在テハ、被告人ノ爲ニ、抵償ヲ告訴人若クハ告發人ニ科スルヿヲ得、民法千三百八十二條、千三百八十三條但シ

重罪ハ、此ノ例ニアラズ、蓋シ重罪ハ、世ノ利害重大ナルヲ以テ、力メテ摘發ヲ要シ、告者ノ失錯ヲ咎メザルナリ、（メーヴン子ウ氏、下二條同シ、）

若シ事、有意誣告ニ出ルトキハ、重輕犯件ヲ論セズ、刑法三百七十三條ニ據リ、禁獄一月以上一年以下、罰金百フラン以上三千フラン以下ノ罪ヲ科シ、及抵償ヲ科ス、故ニ重罪裁判ニ於テ、無罪放免ノ裁ヲ受ルノ被告人、抵償ヲ求メンカ爲ニ、其ノ告發人ノ主名ヲ知ランヿヲ願フ時ハ、重罪裁判ノ大目代、之ニ告示セザルヿヲ得ズ、被告人、告發



人ヲ重罪裁判未タ閉チザルノ間ニ知ル者ハ、直チニ要償ノ訴ヘヲ爲シ、其ノ裁判已ニ閉ツルノ後ニ知ル者ハ、民法裁判ニ向テ訴ヘヲ爲ス、

告發人、若シ官吏ニ係ルトキハ、誣告スル者ヲ除クノ外、失考ヲ以テ、抵償ヲ科スルヿ無シ、但シ事情平易、衆共ニ知ルベキ者ニシテ、猶ホ考ヲ失フ者ハ、被告人ヨリ、私訟法ヲ用ヒテ、要償スルヿヲ得、（私訟ト云ハ官吏ヲ訟フルノ法、）

民法ニ據ルニ、凡ソ相續人、死ニ中ツルノ重罪ヲ以テ、其ノ先人ヲ誣告シタル者ハ、相續スルヿヲ

得ズ、七百二十七條





○第十五章

私訴

罪犯ハ、已ニ公益ヲ害シ、又私利ヲ傷ル、故ニ目代、公衆ノ爲ニ懲罰ヲ求メ、被害人、自己ノ爲ニ抵償ヲ求ム、並ヒ行ハレテ悖ラズ、前ニ見ユ

通常告訴人タル者ハ、惟目代ニ向テ、報告知照シ、自己ノ爲ニ抵償ヲ求メズ、已ニ告ルノ後ハ、訟事處行、專ラ目代ヲ仰キ、訟ノ捷敗、共ニ之ニ干ラズ、故ニ被告人無罪ヲ以テ放免シ、訴ヘ成ラザル時ト云ヒ、告訴人亦刑訟費ヲ償當セズ、但タ被告人ヨリ誣告、及

告訴疎率ノ要償ヲ受ク、其ノ私訴人ト爲リ、要償スル者ハ、或ハ目代ニ附從シ、刑廷ニ訟理シ、若クハ民事裁判所ニ向テ訟理シ、若シ敗訟スル時ハ、己レ訟費ヲ償當スルノ裁ヲ受ク、被告人ノ要償ニ論勿シ、

按スルニ、私訴ハ、被告人ト私敵ヲ相爲シ、捷敗抗衡ス、訟捷ツ、抵償ヲ獲、其ノ尋常告訴ニ比フルニ、利タル大ナリ、訟敗ル、反テ抵償、及刑訟費ニ當ル、失タル亦大ナリ、

刑訟ニ附從シテ、私訴スル者ハ、刑事裁判官、并セテ其ノ民訟ヲ裁スルノ權ヲ有ス、其ノ刑事ニ附



帶スルノ民訟ナルヲ以テナリ、

私訴人別ニ民事裁判所ニ訟フル者ハ、或ハ刑訟ノ有無ヲ待タズ、或ハ刑訟已ニ終ルノ後ニ於テス、

私訴ハ、或ハ刑事ニ附從シテ行ヒ、或ハ別ニ行フヲ許ス者ハ、本人ノ便慣スル所ニ從フナリ、

私訴ノ刑訟ニ附從シ、刑廷ニ訟フル者ハ、公訴ト同時ニ裁決シ、抵償若干、被告人ニ科スルヲ云、別ニ民事裁判所ニ訟フル者ハ、必ズ公訴落着ヲ待テ、其ノ後ニ裁決ス、其ノ刑訟ヲ待タズ、獨リ民事裁判所ニ向テ

私訴ハ審訊中、目代刑訟ヲ發スル者ハ、亦從テ民訟ヲ停メ、刑訟終ルヲ待テ、其ノ後ニ、民事裁判所始メテ裁決ヲ行フ。公訴。籍。留。私訴。ノ元則ニ據ルナリ、然ラザレバ、民刑ノ裁、互ニ異同アルノ不便ヲ致サントス、

始メ通常ノ告訴ヲ以テ、目代ニ報呈シ、目代亦ケテ承理セザレバ、更ニ私訴人トナリ、目代ニ由ラズシテ、直チニ懲治裁判所ニ廷質ヲ請ヒ、懲治罪犯ニ限ル、○治罪法百八十二條或、直チニ糾問法官ニ向ヒ、糾治ヲ請フヿヲ得、六十三條○「メーブン子ウ」氏「ゾン子ウ」氏但シ重罪犯ハ、直チニ



重罪裁判所ニ訴フルヿヲ得ズ、「メーブン子ウ」氏又云、目代、若クハ糾問法官、告訴ヲ承理セザルトキハ、被害人直チニ懲治裁判所ニ私訴スルヿヲ得、或ハ、又大目代、并ニ上等裁判所ニ訴フルヿヲ得、○「ブーロ」氏曰、治罪法四十七條、六十四條、七十條ノ明文アリト云ドモ、目代、及糾問法官、現ニ告訴告發及私訴ヲ承テ理セザル有ルヿヲ得、○目代ノ章ト參スベシ

私訴人タル者ハ、其ノ目代若クハ糾問法官ニ呈スルノ告訴狀中ニ、抵償ヲ要求スルノ旨ヲ陳說スベシ、別ニ式樣ナシ又告訴狀ノ外、別ニ要償狀ヲ進ムルヿヲ得、審問中、俄カニ私訴人タラント欲スル者ハ、對理ノ日ニ至ル迄、已ニ告訴狀ヲ呈シタル者、及未タ告訴告發ヲ爲サヾル者ト云氏、要償狀

ヲ呈シ、及刑廷ニ於テ、ロッカラ要償ノ旨ヲ述フルヿヲ得、（要償ノ權ヲ防ガザルナリ、○「グロン」氏）抑、要償ノ權、此ノ如シ、但タ要償ノ訴ヲ約束スルニ、訟費豫納ノ法ヲ以テシ、凡ソ懲治罪以下ニ於テ、私訴人タル者ハ、刑訟費ノ概數ヲ稅務ニ豫納ス、其ノ裁決ノ日、私訴人、敗訟スルヲ論セズ、及私訴人敗訟セズト云ヒ、被告人亦刑訟費ヲ科罰スルニ至ラス、若クハ其無カニシテ、完納スルヿ能ハザル者ハ、並ニ私訴人擔當ス、（私訴人無カノ証アル者ハ、例ニアラス）其ノ重罪犯ニ於テハ、豫納ヲ要セズ、而シテ訟費





ヲ納ルヽハ、敗訟ノ時ニ限ル、（原告人敗訟セザル者ハ、政府訟費ニ任ス、是レ重罪ノ爲ニ、告訴ノ道ヲ廣ムルナリ、○千八百十一年六月ノ令、）

前條千八百十一年ノ令ニ依リ、私訴人往々訟費ニ責當スルヲ致スヲ以テ、治罪法又條ヲ設ク、曰、若シ已ニ私訴人タルヿヲ申告スルノ後、原告人擬議ヲ生シ、訟費ノ責當ヲ避ケント欲スル者ハ、申告ノ後二十四時ヲ出テザル間、裁判未タ宣告セザルノ前ニ、要償ヲ歇ムルノ旨ヲ陳スルヿヲ得、然ル者ハ、敗訟ストテ云ヒ、訟費ヲ免ス、

私訴人タルヿヲ得ル者、躬親シク害ヲ受ケタル

者、及其ノ相續人、及其ノ家眷ノ生養ヲ失フニ至ル者、是レナリ、又調藥師、許可票ナキ密賣人ヲ訴ヘ、醫師、印可ナキ私醫ヲ訴ヘ、專賣免許人、假托制造ヲ訴フルヿヲ得ルノ類、（ロングロシヒ氏ニ據ル）公訴ハ、犯者死スレハ、從テ滅フ、私訴ハ、犯者ノ相續人ニ延及ス、（賊盜死スト云ヒ、其ノ子、其ノ贓ヲ利スルヿヲ得ズ、○此ノ時ハ、必ズ民事裁判所ニ向テ訟理ス、）

治罪法備考上編第四卷終



御用御書物師
東京日本橋四日市
林　半兵衛
同蠟売町一丁目水天宮前
若林喜兵衛
賣弘所